年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科　商業　科目 商業選択C プログラミング

教　科：商業　科　目：商業選択C　プログラミング　単位数：2

対象学年組：第　3 学年　1 組～　5 組

教科担当者：藍澤・木下

使用教科書：（ プログラミング　東京法令出版 ）

教科　商業　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】商業の各分野について体系的・系統的に理解し、ビジネスの場面で活かされる知識を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】ビジネスに関する課題を自ら見つけ出し、職業人に求められる倫理観と創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、ビジネスの創造と発展協働的に取り組む態度を養う。

科目　商業選択C　プログラミング　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付ける。	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	第１章　情報システムの重要性 ①　企業における情報システムの重要性について理解する。 ②　情報システムが，企業活動の改善とどのように結びつくのかを見出そうとしている。 ③　情報システムが企業活動にとって有用であるという事例の検討に，主体的かつ協働的に取り組んでいる。	・指導事項 第１節「情報システムとプログラム」 ①情報システムとプログラム 第２節「情報システムの活用」 ①日常生活で利用される情報システム ②企業活動で利用される情報システム ・教材 教科書、問題集 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 企業における情報システムの重要性について，身の回りの状況や書籍・メディア情報などから得た具体的な事例をもとに深く理解している。 【思考・判断・表現】 情報システムが，企業活動の改善とどのように結びつくのか，情報システムの導入前と導入後の比較を行ったり，具体例を挙げたりして，根拠を示して見出している。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報システムが企業活動にとって有用であるという事例の検討に，プログラミングとの関連性を意識しつつ，主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	4
	第２章　ハードウェアとソフトウェア ①　ハードウェアとソフトウェアについて理解するとともに，関連する技術を身に付ける。 ②　コンピュータ内部の動きについてソフトウェアの実行と関連付けて考察し，ハードウェアが動作するためのソフトウェアの必要性を見出す。 ③　ハードウェアとソフトウェアについて自ら学び，プログラムと情報システムを開発する上でのハードウェアの機能とソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 第１節「ハードウェアの機能と動作」 ①コンピュータの構成要素 ②コンピュータのデータ表現 ③命令実行のしくみ 第２節「ソフトウェアの体系と役割」 ①ソフトウェアの体系 ②OSの役割 ③アプリケーションソフトウェアの役割 ・教材 教科書、問題集 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ハードウェアとソフトウェアについて，実際のコンピュータの動作や情報システムの活用と関連付けて理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コンピュータ内部の動きについて具体的・実際的なソフトウェアの動作と関連付けて考え，ハードウェアとソフトウェアの関係について深く考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ハードウェアとソフトウェアについて，身の回りに存在する実物や，情報システムの動作と関連させながら，それぞれの仕組みや効果的な活用方法について主体的かつ協働的に検討しようとしている。	○	○	○	11
	第３章　アルゴリズムの表現技法とデータ構造 【①　アルゴリズム検討の重要性，アルゴリズムの表現技法，データ構造，制御構造など，アルゴリズムに関する知識を理解し，関連する技術を身に付ける。 ②　アルゴリズム選択やデータ構造選択によって問題を効率的に解決するための方法を見出す。 ③　アルゴリズムについて自ら学び，プログラミングによって問題を解決するために必要な方法を考察することに主体的かつ協働的に取り組む。 ・貸借対照表の区分がなぜ必要かを説明できるようにする。	・指導事項 第１節「アルゴリズムの表現技法」 ①アルゴリズムの表現技法 第２節「データ構造」 ①データ構造の分類 ・教材 教科書、問題集 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 アルゴリズム検討の重要性，アルゴリズムの表現技法，データ構造，制御構造など，アルゴリズムに関する知識や技術を，問題場面とそれに対応したデータ構造の関連を示すなど，具体的事例を踏まえて身に付けている。 【思考・判断・表現】 アルゴリズム選択やデータ構造選択によって問題を効率的に解決するための方法を，具体的な事例と関連付けながら見出している。 【主体的に学習に取り組む態度】 アルゴリズムについて自ら学び，プログラミングによって問題を解決するために必要な方法を考察することに，具体的な事例と関連付けながら主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1

2学期	第４章　手続き型言語のプログラミング ①　プログラムの作成について，アルゴリズムを踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付ける。 ②　企業活動の改善に関する要求を分析し，プログラムによってその要求を満足させる方法について見出だす。 ③　アルゴリズムやプログラミングについて自ら学び，企業活動の改善に対する要求を踏まえ，適切なアルゴリズムの考案とプログラミングに主体的かつ協働的に取り組むこと。	・指導事項 第１節「プログラミングの手順」 ①表計算ソフトウェアのプログラミング機能 ②プログラムの作成と実行 第２節「データの入出力と演算」 ①変数と定数 ②データの入出力と代入 ③四則演算 第３節「条件判定と繰り返し処理」 ①条件判定 ②一定回数の繰り返し ③条件による繰り返し ④最大値と最小値 第４節「配列の利用」 ①配列とは ②配列を利用した集計 ③線形探索 ④二分探索 ⑤順位付け ⑥並べ替え ⑦多次元配列 ・教材 教科書、問題集 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 プログラムの作成やアルゴリズムの選択に関する知識や技術について，具体的な問題解決場面に関連付けて理解・習得している。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に関する要求を分析し，プログラムによってその要求を満足させる方法について，複数の解決方法を比較してよりよいものを考察するなど，深く検討している。 【主体的に学習に取り組む態度】 企業活動の改善に対する要求を踏まえ，アルゴリズムやプログラムについて，主体的かつ協働的に，粘り強く考え，よりよい解決方法の考案に取り組んでいる。	○	○	○	29
	第５章　プログラムと情報システムの開発 ①　プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付ける。 ②　企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，情報システムを開発し，評価・改善する。 ③　プログラムと情報システムの開発について自ら学び，企業活動の改善に対する要求を踏まえ，適切なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 第１節「情報システム開発の手順と手法」 ①情報システム開発の手順 ②情報システム開発の手法 第２節「プロジェクト管理」 ①プロジェクト管理の意義 ②プロジェクト管理の手法 第３節「情報システムの評価と改善」 ①情報システムの評価 ②情報システムの評価の手法と改善 第４節「情報システム開発と法規等」 ①権利の保護と管理 ②セキュリティ管理と法規等 ・教材 教科書、問題集 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 プログラムと情報システムの開発について，実際の情報システムや自分たちの経験したことのある事例などと関連付けつつ，知識・技術を理解・習得している。 【思考・判断・表現】 プログラムと情報システムの開発について，実際の情報システムや自分たちの経験したことのある事例などと関連付けつつ，知識・技術を理解・習得している。 【主体的に学習に取り組む態度】 プログラムと情報システムの開発について自ら学び，企業活動の改善に対する要求を踏まえ，どのような手法によって情報システムを開発・管理・改善していけばよいのかを考案することについて，粘り強く，主体的かつ協働的に取り組むことができている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○	○	1
3学期	第６章　手続き型言語を用いた情報システムの開発 ①　手続き型言語を用いた情報システムの開発について，実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付ける。 ②　企業活動の改善に対する要求を分析し，情報システムの開発に関する知識や技術を活用して，その要求を満足させるための方法を検討する。 ③　企業活動の改善に対する要求を踏まえ，情報システムによって要求を満足させる方法を検討することに対し，主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 第１節「情報システムの開発演習①」 ①売上集計システムの開発 第２節「情報システムの開発演習②」 ①ワークシートを活用した情報システムの開発 ・教材 教科書、問題集 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 手続き型言語を用いた情報システムの開発について，企業活動の改善に対する要求を踏まえ，根拠を示しながら，解決方法を提示するための知識を理解しているとともに，関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 企業活動の改善に対する要求を分析し，いくつかの解決方法を比較してよりよいものを選択するなど，効果的な解決方法を深く検討している。 【主体的に学習に取り組む態度】 企業活動の改善に対する要求を踏まえ，情報システムによって要求を満足させる方法を検討することに粘り強く取り組もうとしているとともに，さらによい方法がないか，主体的かつ協働的に考えようとしている。	○	○	○	8